

令和五年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

「ありがとう」を納める

野田市立岩名中学校 第二学年 西野 晴音

税金を納めることは、「ありがとう」を納めること。私は父と税金について話したとき、こう考えました。

「税についての作文」を書くにあたって、私は父に税金の使われ方について話を聞きました。

父は、税金の使われ方の例として、ゴミ収集の話をしてくれました。

ゴミ収集は絶対に誰かがやらなければならない仕事です。ゴミ収集をしないと町中がゴミだらけになってしまいます。けれども、町中を回ってゴミを回収する作業を、人が住んでいるところで取りこぼすことなくやらなければならない、というのはとても大変で難しいことだと思います。そういった仕事を、税金を使って、市が引き受けているのです。

父は、このことを、本当にありがたいこと、と話していました。

父の話を受けて、私は税金の使われ方についてもっと調べてみようと思いました。

例えば、上下水道の整備は、税金によって行われています。私たちが当たり前にお風呂やトイレが使えるのは、税金のおかげです。

また、私たちが学校で使っている教科書や、机や椅子などの設備まで、税金が使われているのです。

私たちの生活には、身近なところに税金が使われていて、それに支えられているのだと気がつきました。

私の父は、市役所で福祉に関する仕事をしています。父はよく、仕事のやりがいは、「ありがとう」と言われることだ、と言っています。感謝してもらえることが、結局何よりも嬉しい。そう、しょっちゅう言っています。

「私」が納めた税金が、形を変えて、誰かに届き、「ありがとう」に変わる、それはとても素敵なことだと思います。

そして、「誰か」が納めた税金が、形を変えて私に届きます。それは様々な形で生活に潜んでいます。税金について知ることとは、それらを見つける第一歩になると思います。

私は、「税金を納めること」とは、「私」と「誰か」をつなぐことだと思います。支えて、支えられて、人と人とのつながりです。顔や名前を知らなくても、確かに存在する「助け合い」なのです。

税金を納めることは、「ありがとう」を納めること。税金は私たちの生活のすぐ近くで使われています。税金についてもっと知って、「ありがとう」をたくさん見つけたいです。